

◆◆養成講座から◆◆

介護は、先ず介護される立場の勉強を

・・・病気は人を選ばない。誰もがなるという事実を認識しよう・・・

◆◆現在「家族を介護中の受講者の方から」◆◆

「受講前までは、講座の前半が講義ばかりで、実はがっかりしていましたが大変な間違いでした。

講義を受け、介護に必要なのは介護技術の習得より先に、お年寄りの心や体について深く知り、歳をとることがどんなことなのか。その上でお年寄りとうかがわり、どう理解をしていくのかを考えるのが最も大切なことであることがわかりました。

介護をしながらこのことを実感しています。介護に疲れて落ち込んだ気持ちがたくさん救われました。」

◆◆受講して感謝しています◆◆

と、感想をいただいております。

養成講座も後半に入り、あと実習と実技を残すのみとなりました。どの講座も充実した内容ばかりでした。

私達は介護を担う側ばかりでなく、いつ介護を受ける側になるかわかりません。老後の事を自分自身のこととしてとらえ勉強の機会を得ることは必要なことだと講座から学びました。

◆◆◆◆◆

施設見学をさせていただきました岐阜県池田町の特別養護老人ホームサンビレッジ新生苑は、創設時から「老人を大切にする」ということを使命の一つにかかげておられます。

その意味が十分伝わる先駆的なあたたかいホームでした。

事務所当番をして下さっていたMさんがつぶやくように言われた。
「これで済ませね。本当にこういう急に困った時、不安な時、すぐ電話をかけられる窓口がいるんですよ。本当に、Qさんは安心なさったでしょうね。」
こういう場合、一人暮らしのQさんには、家事援助のほかに心のケアが一番必要のようでした。

私達は、Qさんの要望通り、即対応することを約束しました。
◆◆◆◆◆
「一人暮らしのQさんの声は、不安でたまらないという感じでした。」

金曜日の夕方、事務所を閉めて帰ろうとしたら電話が入った。「Qですが、今日部屋の中で転んで腕を骨折してしまいました。病院はこのくらい骨折では入院させてもらえないので、家に帰って来ましたが、お掃除着替え、洗濯、食事など一人で何も出来ないで、明日から土曜・日曜になりますけれど、何とか来てもらえないでしょうか。」
Qさんは、私共が定期的ではなく、病院での診察の順番とりや通院介助などの単発でケアをさせて頂いていただいている利用会員さんです。
もともとあまりお元気ではない一人暮らしのQさんの声は、不安でたまらないという感じでした。

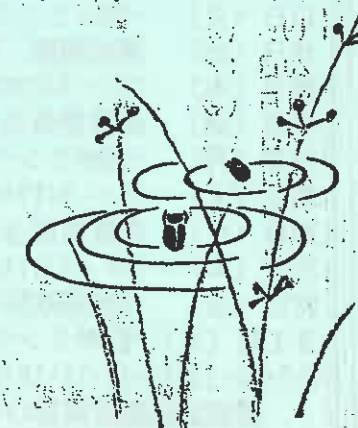
◆◆◆◆◆
「一人暮らし」
突然の事故
気軽にすぐ頼める安心の窓口
病気や事故は突然に
単発ケアの大切さ

5月会員登録状況

協力会員	39人
利用会員	33人
賛助会員	103人
計	175人

5月活动状況

活動件数	15件
活動人数	20人
活動時間	229時間



映画と講演の集い(予定)
アルツハイマー病を患う妻に夫はファインダーを向けた
ドキュメンタリー映画
老いるとは、病とは、夫婦とは、そして生きるとは
映画をとおしてこの問題をみんな考えてみたいと思います。
日時・・・平成七年九月八日(金)午後一時
場所・・・一宮スポーツ文化センター三階小ホール

☆☆扶桑町の講演から
この程、三市二町(岩倉市、江南市、犬山市、扶桑町、大口町)の社会福祉協議会主催による「まごころサービスタウン」のお話しをさせていただきました。その中で、「まごころサービスタウン」のお話しをさせていただく機会がありました。住民参加型在宅福祉サービスについて幾つかのご意見ご質問がありました。原点に立ち返って考えなければならぬとでも良いご質問でしたので、皆様にもお知らせ致します。会としては、次のようなお答えを致しましたが、皆様はいかがお考えでしょうか。
◆◆◆◆◆
行政サービスの充実と支障はないか

本来、行政による在宅福祉サービスの充実には勿論必要です。行政サービスが行うべき部分まで住民参加型が担うのではないと思っております。必要なのは、この活動が行政や地域の他機関との連携をはかり、地域福祉の輪をみんなで作りに上げていくことです。
急速な高齢社会の様々なニーズにこたえる手だては、行政のみではなかなか難しく、幅の広いサービスの提供が出来る民間の活動は必要だと思っております。
肝心なことは、市民が老後や介護が抱える大きな問題を、自らのこととして考え、自らも解決していこうというところに活動の意味があるのではないのでしょうか。
住民の助け合いの活動が、地域に住む人達が安心して暮らせる一助になるとすれば、このサービスは必要不可欠であり、ひいては、地域福祉の質と量への充実へとつなげていけるのではないかと思っております。